

# 翻訳

## ジョン・ノックスによる宗教改革文書 (1)

### The Reformation Pamphlets by John Knox (1)

—1556年に神の御言葉の牧者であるジョン・ノックスからスコットランドの摂政メアリーへ差し出した書簡と1558年著者による補足説明文書<sup>1)</sup>(1) —

### The Letter delivered to the Lady Mary, Regent of Scotland from John Knox and the Addition (1)

伊勢田 奈 緒

1. 緒言
2. 翻訳

#### 1. 緒言

ここに翻訳したものは、1556年にスコットランドの宗教改革者ジョン・ノックス (John Knox, 1514–1572) が摂政メアリー (Mary of Guise, 1515–1560) に宛てた書簡とその二年後、新しい序文と増補文を付け加えて、ジュネーブで発行されたものである。1556年に宮内警護伯ウィリアム・キースがノックスの説教に感銘して、摂政メアリー (Mary of Guise, 1515–1560) にプロテスタントに転向するように手紙を書くことを奨めた。1556年当時、スコットランドにおける摂政メアリーの宗教政策はメアリー・チューダー (Mary Tudor, 1516–1558) によるプロテスタントに対する過酷な迫害が行われていたイングランドと違って、プロテスタントに対して寛容であった。故にノックスは摂政メアリーを通じて宗教改革の希望をもって彼女宛てに書簡を差し出したと考えられる。しかし、1558年の増補文では彼はその希望を放棄したことを明らかに宣言している。この1556年の書簡と1558年の増補文との比較をすることはノックスの政治的宗教改革思想 (抵抗権) の変化を考

察するための重要な史料と考えられる。(尚、ここに訳したものは前半であり、後半は次号に続く。)

#### 2. 翻訳

「狭い門から入りなさい。なぜなら、滅びに通じる門は、広く、その道も広いから」(マタイによる福音書7章13節)

1558年 ジュネーブの James Poullain / Antony Reboul により印刷

#### 序文

善なる閣下、私がこのことを思いつき、この嘆願を閣下に示すのは、詳しくある場所で述べ、説明してきたのですが (1556年5月に、スコットランドにおいて閣下へ出したものですが)、すべての公正と公平に反して、私の説く教義のすべては誤っていて惑わせるものであり、異端だとし、私を非常に残酷な火刑に処し、地獄へ落ちよう宣告した司教たちに非常に腹立っているからであります。もし、この危害が私にだけむけられたものなら、私は良心をもって、黙って、見逃すことが出来ましょう。そして、そのために、彼らが非難され、彼らのシナゴグを追い払うようなことで、私は神を祝福し、キリスト・イエスにより神の永遠の社会において迎え入れるとい

<sup>1)</sup> Letter to the Queen Dowager, Regent of Scotland (Augmented Version) 1558, Geneva (STC nos.15067), David Laing(ed.), Selected Writings of John Knox, Edinburgh, 1846, p.439–451

うことを確かめられるでしょう。

しかしながら、彼らがキリストの福音について（私を聖職者として用いてくれた神の偉大な慈悲をうれしく思っているのですが）の永遠の真理に反することを激しい勢いで吐き、神を冒瀆していることを考えれば、（もし、神が私の目的を妨げないならばであります）私は肖像画の替わりに、（サタンの一員である）彼らが冒瀆的に非難するあの教義を正当化するため、体を用いようとする、彼らの暴政的で推測される判決<sup>2)</sup>を恐れないと貴方様と彼らに知らせることを止めることはできないのです。ところで、私は閣下に次のことを公にします。判決の宣告を行ったり、暴政を行う彼らから、そのことを擁護するすべての者から判断して、私は、合法的な一般議会に訴えます。私は、話すことの自由を必要とします。閣下と王国の体の前で、私の理由が聞かれることを必要とします。私に対してそのような訴訟手続きが行われる前に、私は閣下に証人として怒らずに聞き入れてくれることを求めます。この私の手紙は、閣下に立証するために差し出すものであります。

#### Letter（手紙）

神に選ばれた子等にこの世の不幸な生活の中で、苦しくとも雄々しく戦うように命じられた永遠なる神の摂理はまた、彼らの驚くべき戦いにおいて、驚くべき仕方と彼らの保護という方法によって彼らの最終的勝利を定めたのであります。彼らの勝利は抵抗して達したのではなく、苦しんで達したものであり、それは私たちの主が主の弟子たちに忍耐するように命じられたようにであります。それから、預言者イザヤが同じく次のように預言しました。イザヤは神の民の勝利以外の全ての戦争は、暴力、暴動、流血の惨事とともにあると評するのですが、しかし神の民の勝利は、静けさ、沈黙、希望においてあるとします。つまり、彼らが勝利を得るには、敵に抵抗することを強いられ、また、血を流し、殺されることを意味することだとしますが、し

かし、これは神の選びがそのようにするのはなく、彼らが、全てのことを、彼らに苦しむことを命じられた神の命令として捉え、耐え続け、そして彼らが皆、裁かれ、抑圧されたその時にこそ、彼らが確かに勝利したと認めとするのです。というのは、キリストの十字架においては、常に、苦難された方がいわば、絶やされるという事と共に、復活されるまで、決して十分には分からなかった、という秘密の隠された勝利が含まれていたからです。たとえば、誇り高いカインは失った弟の思い出す時にこそ、弟アベルの血が神に叫ぶのが聞こえるからです。

私は貴方様に言いたいのです。彼らの勝利は、驚くべきことだと。そして、彼らは一体、どのようにして守られ、どうして苦難させられたことを言わないか、人の目には、理解できません。しかし、神の力は計り知れないものであって、神は秘密裏に隠れて行動され、神の民を救うため、人の裁きに対して、心を動かし、深い同情と、憐みをもって、滅ぼそうとする者に対して、神の力を発揮なさるのです。神は、ファラオがイスラエルの子供たちを滅ぼすことを命じた時、その子らを守るエジプトの産婆の気持ちをも動かし、また、ファラオの娘も同様に、水の危険にさらされている幼児であるモーセに憐れみの心を持たせました。ネブカドネツアルの心を動かして捕虜を生かし、才能のあると思われる子供たちを自由に育て守りました。そして、最後にキュロスの心を動かして長い束縛と奴隷状態の後、神の民を解放したのであります。

神は特に次の2点から、こうした神の選びを用いて、神の见えない力と愛それ自体を時折、証明します。第一は、さまざまな誘惑の中にある神の弱い兵士たちを慰めることです。神は神の民に時々、神の民の敵たちに対して、戦うように強いことがお出来になり、そして、神が彼らを救出することもお出来になることを彼らに理解させるということで証明します。第二は、彼らに神の好意の証言を示していることです。それは、外から見る限りでは、（聖パウロが言っているように）彼らはこの世において、神を求める前は、イスラエルの国

<sup>2)</sup> 1556年に司祭によってノックスが異端として有罪判決を受け、続いて肖像画を公に焼却された。

からの異邦人として、そして神の教会になされたその慈悲深い約束と自由な恵みを結ぶことなしに生きていました。というのは、前述の神に指名された如何なる人<sup>3)</sup>も、神の見えない力と愛が彼らに働きかける前に、そのような性質や慈悲をもっていたとだれが、断言できたでしょうか？しかしながら、苦しめられた人々に示されたこのような憐れみの業は、神が彼らを神の名誉の器として用いられからだと私たちは確信できます。というのは、苦しめられたキリストの群れに示された憐れみと慈悲であると証明できるのは、(神の名誉の器として用いられた者たちが<sup>4)</sup>) 決して世俗の報酬を必要とせず、またそうあり続け、そして残忍になることもないということから、神から受け取られるべき永遠の慈悲のしるしであると、確信できるからです。神は、聖霊によって、(神の名誉の器として選ばれた<sup>5)</sup>) 彼らの心を動かし、圧迫され、苦しめられた神の民に憐れみを示されるのです。

#### Addition (補足)

この前書きは、私が以前、閣下に差し上げましたものですが、貴方様はこの前書きによって、キリストのメンバーたちが初めから置かれていた状態を考慮なさり、この世において神の聖徒らが圧迫されていることは新しいことではないと見ておられるかもしれません。この真摯な熟考により動かされ、貴方様は、また、サタンの僕、あなたの司祭の激怒は一神と神の真実に反対するのに向けられているのですが—そのサタンの僕に従い、サタンの奴隷になることよりも、むしろ、殺人から彼らを救う方を(多くの邪惡な意見によって貴方様は反対に苛立ってくるのでありましょうが) 思うことでありましょう。しかし、このことについては、手紙の後で述べることに致します。そこで、次に続けます。

#### Letter (手紙)

恐らく、閣下は、これらのことが、何の目的で列挙されるのか不思議に思っておられることでしょう。しかし、実際、私は今現在、同じように列挙する機会を私にどんなに与えられても不思議ではないのです。というのは、サタンが多くの人の心を目の見えないものとして、純潔な人々が呪われ、しかもそのことが決して裁かれないという、このような決定的な最も邪惡な日々になって、閣下を書くよりも、むしろ、死の宣告の方に期待するからです。

#### Addition (補足)

貴方様は、時々、フランス、イタリア、スペイン、フランドル、そして遅れて今やイングランドにおいても、キリスト・イエスはこの世のただ独りの救い主であり、神と人との唯一の仲保者であり、すべての信仰者の罪を受け入れ、唯一、犠牲となり、ついには神の教会の唯一の頭であることを告白した人々が極めて残忍に殺されていることを知らないわけではないでしょう。さらに私はこれらのことを申し上げたい(貴方様は彼についてその噂を聴いておられることでしょうが) のですが、貴方様は、スコットランド王国内でも同じ理由で、幾らの者たちが殺されてきているのを目の当たりにして、この理由を無関心で聞かないということは決してないと思います。しかしながら、審判の席を占める殺人者たちは、キリストの真の証言者たちの血を流してきたのです。それは、その時、火で焼き尽くしたようではありますが、にもかかわらず、彼らは、最近、神の御前にあってそのことで苦しみ、そしてアベルの血をもって復讐を求めることを止めず、殺しの張本人のように襲撃するばかりでなく、暴政を行っている獣のような残忍な暴君たちに従っているのです。

これをすべての人の証言としてみなしてはなりません。しかし、神の御子の声として聞き、考慮して下さい。「こうして、正しい人アベルの血から、あなたたちが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至る

3) これは前述のファラオの命令をうまく交わした産婆やファラオの娘、ネブカドネツアル、キュロスのことを指している。

4) 括弧内は拙訳者の補足である。

5) 括弧内は拙訳者の補足である。

まで、地上に流された正しい人の血はすべて、あなたたちにふりかかってくる。<sup>6)</sup>」この御言葉によって、キリストの時代と同様、私たちの時代の殺人者たちの罪は、今まで流されてきた血すべてに対するものであるということになります。これは、恐ろしいものですが、しかし、非常に平等で、適切なものと思われまます。キリスト・イエスのメンバーであり、主の真理を告白する者の血を流す者はだれでも、世界が創造されて以来なされてきた殺人のすべてに一致するものということです。神に選ばれた者たちがキリストの義全体に関わっているという一つの共有するものが存在するように、すべての邪悪な事を行い、罪ある者として、神に見捨てられた人であるサタンの子孫達の間にも一つの共有するものがあるのです。なぜなら、彼らは皆、共にキリスト・イエスに反対し、キリストの永遠の真理に反対し、それぞれが、階級、年齢、地位、財産の中にあるこの世のサタンである、支配者に仕えているからです。今日、生きている彼らの同胞である殺人者たちは、アベルの血のカインと共に罪ある者なのです。王や支配者たちは、権力によって神の民を圧制し、神の民が、神が命じられたように神を真に礼拝することを許さず、エジプトに彼らをとどめておいたファラオの同胞であり、仲間です。高位聖職者たちや司祭たちのおそろしい不正やごうまんな生活は彼らが統治しているすべての王国を汚し、彼らは、彼らの父祖、ファリサイ派の人々と共に知識の鍵を取り去り、人々の前で天の国を閉ざすのです。そして、彼らは天の国に自分が入ろうとしないばかりでなく、入ろうとする他の人びとも許さないのです。人々はある者は無知のため、ある者は恐れのため、略奪の側での非常な食欲さのため（キリストは十字架にかかり、兵士たちは彼らの中でキリストの衣服を分けましたが）、目が見えず、キリスト・イエスに反抗し、キリストの哀れな群れに反対し、高慢で有害な殺人者である高位聖職者を守ることに協力するのです。だから、彼らすべてが犯している

罪（それは、キリスト・イエスに反逆しているのですが）のため、彼らすべては苦痛を味わい、それは、決して消されることが出来ない火であるのです。

マダムよ、貴方様が、もし来るべき人生に希望をもつのであれば、四方に目を配り、注意深くするべきです。というのは、もし無知と目が見えないことで、破壊と死をもたらされるとしたら、(私たちの主であられるキリストは次のように語っておられます。「もし、目の見えない人が目の見えない人を案内すれば、彼らは二人とも穴に落ちてしまう<sup>7)</sup>」と。)神が示される真理を、高慢且つ悪意を持って軽蔑する人は、いったいどうなると思いますか。恐らく、私たちの教義は、真理であることを否定されないでしょうが。すなわち、私は次のように答えましょう。その教義とはノアの、モーセの、預言者たちの、キリスト・イエスの、キリストの使徒たちの教義でありますから。そして、最初の世界は水によって破壊され、ソドムとゴモラは天から下ってきた火によって、紅海におけるファラオと彼の味方は、そして、エルサレムの町もユダヤ人の国家も、罰と災害によって滅ぼされました。人々が「これは新しい教義であり、これは異端であり、これは暴動を起こしたのだ。」と叫んだにもかかわらず、私たちが嘆願しているのは、私たちの教義が神の明白な御言葉によって、試みられることであり、そして今論争中の事柄や問題を自由に私たちの気持ちを言い表すことが許されることであります。しかしもし、貴方様がこれを否定なさるなら、キリストの敵に（キリストの教義を異端として宣告する）耳を与えることになり、貴方様は、彼らと共に神の復讐の杯を飲むことになりましょう。しかし、今は元の手紙にもどりましょう。

#### Letter (手紙)

閣下のお耳に入っている私についての噂が、もし全てが真実でありましたら、疑いなく、私はこの地上に生きている価値がない者

<sup>6)</sup> マタイによる福音書23章35節の言葉。

<sup>7)</sup> マタイによる福音書15章14節の言葉。

でありましょう。そして、大衆が、私という者を、一切の同情から閉め出されるべきものであると声を出して非難し、憎しみを持って、閣下の心を煽り立てているのではないかと思います。私は異端として中傷され、偽教師、人々の誘惑者として非難されています。さらにそのうえ、(世間的に名誉と評価を受けている人々に断言されているのであります。すなわち、) 無罪であることを知らない上級行政官が中傷を容易に受け入れ、激怒を容易にたき付けているのです。しかし、神を祝福しましょう。私たちの主であるイエス・キリストの父である神は、神の天の恵みからの雫によって、閣下の心の中にある、(後に私は理解したのですが、) サタンの企てと目的を抑制し、不満の火を消したのであります。私の心は、(神は証人であります、) このみじめな人生において、あらゆる創造物に守られて、(なぜなら、私が当然飲むべき杯は神の知恵によって、定められていてその命令は、変えられないものなのです) いくらかの恵みを受けることによって慰められるというよりも、むしろ、閣下に私と私の非常に絶望的な訴訟を始めるよう、不当にも告発している他の者に対して、中庸で寛大であり続ける貴方様に信頼し、その貴方様が受け取る恵みに非常に慰められるのです。すなわち、もし敬虔なる知恵によって、貴方様が彼らの激怒を抑制することを考慮するなら、彼らは、世間的な虚栄の中、単に無実の者たちを残忍に殺すことなど、どうしても良いことと見なすでしょう。その時、神は憐れみ深い人は憐れみを受けていることを述べ、神の名において与えられた冷たい一杯の水は、報われないものはないという約束であると。そしてまず、現在においても、そして、来るべき子孫の時代においても、貴方様の政府は幸福で誉め讃えられ、ついに貴方様の敬虔なる骨折りは、見たことがないような、あるいは、まだ人の心に思い浮かびもしなかったそのような喜びと栄光をもって報われることでしょう。

#### Addition (補足)

もし、キリストの言葉が真実と尊重される

と、どんな無駄な言葉も説明がなされ、知識も光もないと隠される行為もないでしょう。私は、人の話は知られていないことに関して厚かましく好んで話すより、つんとされた方がましだと思います。というのは、神を真に恐れることは彼らに真実を話す気にさせることにはならないのです。しかし、私は、(もし、少しばかりの人間性が残されていれば、) 世間的に恥ずかしくて、彼らは嘘をつくことをしないと思うのです。閣下の前で、Ayr (エイル) で説教したのは何者かの判断を下す際、様々な人がさまざまな意見をもっていました。それはイングランド人であるという者があれば、そうでない者もありました。少なからぬプライドをもった高位聖職者は、「いや、イングランド人ではなく、それはならず者のノックスだ。<sup>8)</sup>」と言いました。一人の貧しい者に洗礼を授けることは、私の主への喜びでした。その理由は、もしそれが必要とされれば、彼の短白衣と司教の職は権威と戦わなければならないからです。さらに、彼は定義が不確かで、用いていた自由について学びました(今は、このことを省きますが)。私には、彼らの悪意が私の体や名声を害することを残念に思う以上に、支配者たちの面前で、非常に有害なことを自由に話すことの方がより情けないことに思えます。私を教皇制のごたまぜから召してくださった神に感謝して以来の私の生活や行動を、私の敵たちに話させて下さい。そして、彼らが私の教えを受け入れた時にそれを理解することでしょう。閣下が中庸な方であり、私の意見に協調されているという報告があったので、私はこの手紙ではない他の手紙を書く気になったのです。私は、快楽的で、聞きたがりやの楽しみのため、物事を大げさに言ったり、飾ったりする演説者を演じてはいません。そうではなく、私は誠実さを持って、貴方様に非常なる危険について知らせることを私の良心はあえて、証言しているのです。このことについて次で証明しましょう。

<sup>8)</sup> これはノックスが1555年から1556年にかけてエイルで伝道のために過ごしていた時のことを述べたものと考えられる。

## Letter (手紙)

私が、農奴保有地を所有し身分ある方で、知恵と美德が授けられ、尊敬に値する統治者である方に、恐れずに意見しようとするのは大いに無駄で、愚かなことに見えることでしょう。しかし、私は、神が上級行政官に命じ与えられる栄誉について考えるからです。その栄誉とは、疑いもなく（もしそれが、真の栄誉であるならば）それ自体、合法的な事柄において、服従を含み、さらにすべての事において、愛と尊敬を含む栄誉であると思うのです。私は、キリストの真の宗教が今、目の見えない人々によって、圧制されている困難な状態のことを思います。そして、最後におべっか使いの多くの大衆や彼らの統治者たちの面前で、ありのままの真実を、特にキリスト・イエスのためにはっきりと明確にあえて話すまねな人々のことを思います。わたしの今、試みますことに如何に判断されようとも、私は言わざるをえないのですが、もし、貴方様の支配下において、権力を行使する際、貴方様が多くの支配者や統治者たちと異なることが見つけれられない場合、現在、優越におかれている貴方様は、苦痛と痛みが永遠に続き、失意の中に陥るであろうと思うのです。

この申し出は、辛く、しかし、ああ、私が毒を入れられたことを知っている杯を軽率にも、貴方様が飲むのを見たとしたら、私はそれを飲まないようにご注意申し上げないであります。そのことに劣らず、もし私が閣下はこの申し出を隠してしまうなら、私は閣下に対して反逆を犯すということは真実となります。今日、火や剣により人々を守る宗教は、誰が飲んだものでも（真の悔い改めによって彼が後に、人生の水を飲むことは除いて、）それと共に永遠の罰と死という毒を入れた杯なのです。どうやって、誰によって、それは毒を入れられたのかを、もし、それが、私が書いたり、あるいは訴えたりしたりするのが辛くないのと同様に、閣下が読んだり、あるいは、お聞きになったりすることに飽き飽きなさらないのでしたら、私は骨を惜しむことを厭いません。全く、私は、愛をもって、閣下に危険について訓戒することが、私の役目

の一部を執行するのだと思ってきたのです。そして、いつか神が明らかにして下さるでしょうが、私は、私自身に跳ね返ってくる、いかなる肉体的利益よりも、閣下の救いと、人々の（今は貴方様の管理の下にあるのです、）救いの方を求めているのであります。

## Addition (補足)

悪巧みによりサタンが、神の教えの非常に聖なる聖礼典を汚してきたように、私は、第一戒のことを言っているのですが、人の夢、創意、空想をもたらす神の霊的礼拝の場所において、サタンは人の弱みにつけ込んで、第二戒の教えをだめにし、両親達は、支配者や教師に当然与えられている名誉と理解するのです。というのは、今やサタンが多くの感覚をおかしくさせたので、彼らは神に属するものと皇帝に属するものとを判断が出来なくなるか、あるいは少なくとも分からなくなってしまおうでしょう。しかし、聖霊は「王を尊敬する」ことを言ったのだから、彼らが命じるものは何でも、それが正しくてもあるいは間違っているとしても、従わなければならないのです。しかし、そのような神を冒瀆する者らが、あえて大胆にも神がいかなる人にも神御自身に反するよう命じてこられたと断言するのですが、その者らを理解するその判断は苦しいものがあります。いかなる支配者の、彼は決して力強い者でなくても、その命令に対して、人は偶像崇拜を行い、神が神の御言葉によって賛成していない宗教を受け入れ、あるいは彼らの沈黙によって、邪悪で神を冒瀆する法が神の名誉に反してなされたことを認めるということは、神に反することであり、私は言います。人々は、真の服従を言い表しているのではなく、彼らが神の背信者であるように、彼らは、お世辞によって、神に反対して、反抗することを断言する彼らの支配者の反逆者たちなのです。ただ、死ぬまで、悪しき法律と命令に対して、抵抗する人々のみが、神に受け入れられ、君主達に対して忠実な人々なのです。

ネブカドネツアルの面前で3人の子供と、ダニエルは、—それは、ダレイオス（ペルシ

アの王であったが)の時代のことであるが――絶えず自由な信仰告白をし、神を誉め称えていました。そのことを暴君たちや追従するすべての老若男女たちにも知るとこととなりました。それは、彼らが神を最大に冒瀆する者として、人々は激怒しました。このことから、(外から見る限りでは)もし三人の子供たちがその他の人々の間にくじけていたら、そして、ダニエルが、開かれた窓からイスラエルにむかって祈り、それによって、王や議会で確立した神を冒瀆する法や法令に同意しないことをはっきり述べ、彼の信仰告白をしなかったら、両者は突然の神の招きはなかったでしょう。

経験というものは、私たちにキリスト・イエスの敵、永遠真理の敵が何かを推測し、何が神を冒瀆することかを教えてくれます。自分たちの不信心を見つけようとするものの代わりに、何かをでっちあげたり、作りあげたりするのです。彼らは、争乱の張本人、大騒ぎを引き起こした者、一般秩序の侵害者などとして、告訴されます。預言者イザヤは「すべての者は、神の前におろかな民が騒乱やまじないと見なすことを許してはならない。<sup>9)</sup>」と述べています。神の命令に反して公の秩序の乱れや違反は未だにありません。というのは、キリスト・イエス自身、堅固に武装した者から略奪して苦しめるために来たのであって、以前は神の家でずっと静かさの中にあったのです。平和ではなく、剣をもたらすために来られたのであって、御父に同意しない者として来られたのです。キリストの前の預言者たちやキリストの後の使徒たちは、神に反対する公の秩序を壊すことを恐れません。そして、あたかも国民と国家と町の半分がもう半分に反対していても。私は、未だ、サタンに雇われた僕以外、騒ぎましたとキリストを告訴したり、国家を混乱させましたと、キリストの使徒たちを訴える者はいないと信じています。最大の有益な薬が、一時は邪悪で不潔な体液で補充された体を非常に苦しめたことは真実です。しかし、このため、これにつ

いて、病気に従い易いのは、薬ではなく、体であることが知らされました。たとえ神の真の御言葉でさえも、サタンが支配(サタンは未だ、全教皇制を支配しているのですが)している場所で戦いに入った時、大混乱を引き起こすように見えざるをえないのです。しかし、マダム、彼らが壊した体に滋養をつけるよりも、有害な気質が痛みで放出される方が、より有益なことなのです。ローマ・カトリック教会の宗教は、道徳的に有害で、それは確かに体にも心にも永遠に死をもたらすでしょう。この宗教では、この世においては清められないのです。

ですから、どうか、遅れないようにお氣をつけください。神は、貴方様を求めておられます。貴方様は、ご自分の耳をふさがないようになさってください。そのことを私の体がもう価値がなくなった後に、判断なさるようなことはありませんように。神は貴方様のために大使や使者を任命さいましたが、しかし、敬虔さと畏れをもって、私が伝える神を尊重なさってください。私は永遠なる神の名において、神の御子であるキリスト・イエスの名において、貴方様の所へ来たのです。御父がその方にすべての権能をゆだね、神がその方にすべての肉(人間)を裁く主権を確立したのであって、その方の王座の御前で、貴方様がお聞きになった、神が与えるような崇敬を貴方様は、重視しなければならぬのであります。貴方様が、私が神のために許されたか否かを疑うのは、言うことも考えることも許されません。私は貴方様のために泣きます。それは、王妃たちや目の見えない教皇主義者たちが火と剣をもって維持するその宗教は、キリストの宗教ではありません。そして、貴方様の高慢な高位聖職者たちのうちには、キリストの司教たちである者はだれもいないのであります。私は、貴方様に、キリストの群れが彼らによって圧迫されていることをお知らせ致します。そして私は、主なるイエスの名において、再び貴方様が、私が公平に説教をしたり、判断したり、論じたりすることを聞き届けられることを心から望みます。もし、このことを貴方様が否定するのでしたら、

<sup>9)</sup> イザヤ書 8 章 12 節のことであろう。

貴方様ご自身は、キリストを崇敬していない  
のであり、キリストの真の宗教を愛していな  
いのだと宣言していることでもあります。